



広報やすぎ 創刊2000号

～まちの“今”を届け続けて～

平成16年10月1日に安来市、広瀬町、伯太町の1市2町が合併し、新生「安来市」が誕生しました。広報やすぎは、その合併から20日後に創刊号を発行。今号で2000号を迎えました。

そこで、今回はこれまでに広報紙に載ったことがある人を再取材し、当時の思い出などを伺いました。また、広報紙の変遷や歴代広報担当者の声などをお届けします。



紙面を飾った、あの子は今！

まちの今を届けてきた広報やすぎ「どげなかね」。これまでに数えきれないほどたくさんの皆さんに登

▶消防本部消防署救助隊に所属する石倉さん（消防庁舎前）。



30歳となった石倉さん。専門学校卒業後、民間企業を経て、市消防本部に入庁。中学生のときの消防署職場体験がきっかけで、消防士を目指したそうです。当時の記事をあまり覚えていないとのことでしたが、今回の再取材記事が掲載されたら、家族に自慢しますと笑顔を見せていました。

あれから
16年7か月

石倉 駿さん



◀創刊号
(平成16年11月号)

「タウン・トピックス（現在はひらがな）」のコーナー。出雲織のき白鳥の里で、草木染を体験する第二中学校2年1組を取材。写真右側に写る石倉さんを再取材しました。

加藤 春菜さん、成稀さん



◀100号
(平成25年2月号)

やすぎ子ども探検隊「七草体験」を取り上げた表紙。当時小学校1年生の春菜さん（右）と2歳の成稀さん（左）姉弟を100号に掲載しました。

あれから
8年4か月



◀高校1年の春菜さん（右）、小学校5年の成稀さん（左）。

新聞にも掲載された切り抜きを知り合いからいただきましたと、当時のことを思い出しながら嬉しそうに話すお母さん。おだやかな姉と天真爛漫な弟のなかよしツーショットが撮れました。

声の広報



平成28年11月号から、音声読み上げバーコード「SPコード」をCD版に変更しました。



145号

平成28年11月号
同一のデザインだった紙面を大幅にリニューアル。より親しみやすい紙面に。



創刊号

平成16年11月号
記念すべき最初の表紙は「清水寺」。紅葉で彩られた古刹が飾りました。

表紙で振り返る
広報やすぎ「どげなかね」



全国広報コンクール 3年連続受賞

地方自治体の広報活動の向上に寄与することを目的に、優秀作品を表彰する全国広報コンクール。日本広報協会の主催により、昭和39年から実施しています。このコンクールは都道府県別に「広報紙、写真（一枚・組み）、映像、WEB、広報企画」の部門の代表作品を決定し、全国で競います。いわば自治体広報紙の甲子園のようなものです。

広報やすぎ「どげなかね」は、3年連続で全国広報コンクールで入賞しています。

特選（組み写真部） 平成30年11月号



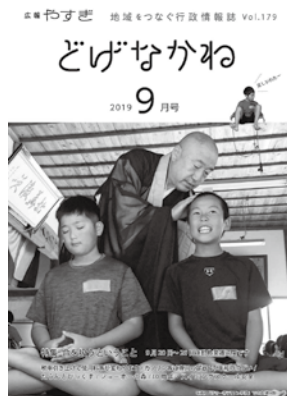
◀ 5年に1度行われる戦国尼子フェスティバル。



▲総務大臣から授与された盾。

入選（一枚写真部）

令和元年9月号



◀ 瞑想している子どもと住職から指導を受ける子どもを対比させた一枚。ユーモラスで見ていて楽しくなる点が評価されました。

入選（広報紙 市部） 令和2年12月号



▲松江養護学校安来分教室を特集しました。



問い合わせ
秘書広報課

TEL 23-3010

広報のチカラでさらなる魅力発信を
200号を迎えることができたのも、日頃から広報紙の作成にご理解いただいている市民の皆さんの協力と、これまでの先輩広報担当者から受け継いだノウハウのおかげです。
広報紙には、まちの動きや市民の皆さんに知ってほしい情報などをお知らせする役割があります。その情報を正確に伝えられるようにわかりやすい文章で、また多くの人に手にとってもらえるように写真やイラストを用いたレイアウトで、親しみやすい紙面づくりを心掛けています。
これからも、まちのいいところや頑張っている人を紹介していきます。市民の皆さんがこのまちをもっと好きになり、このまちに住んでいて良かったと思えるような魅力あふれる広報やすぎ「どげなかね」をお届けします。

歴代広報担当者の声

まちの情報を届けるために、



▲歴代の広報担当者が使用してきた腕章。

- ▼合併時、3市町の歴史文化を同じ市の中で共有できるように紙面作りに努めました。（植田）
- ▼1号発刊前『広報紙に愛称をつけよう。』「どげなかね」って名前はどうなかね?』（い）
- ▼取材を通して多くの魅力的な方々や地域資源に出会い、発見・感動の連続でした。（金）
- ▼初取材は意図しない撮影で撮り直し。試行錯誤と発見・出会いの連続でした。（え）
- ▼ゲゲの女房ブームや安来節保存会100周年が思い出。在籍中に取材した皆さんに感謝。（む）
- ▼地域の皆さんの活動を意識して取材。安来の「凄さ」を実感した6年間でした。（や）
- ▼合併10周年と重なり、取材に東奔西走! 「広報」の重要性や難しさを痛感!!（し）
- ▼48号分を担当。取材では多くの皆さんにお世話になりました。今でも助けていただく貴重な財産です。（の）

